

石巻市立病院開成仮診療所

第2回在宅医療連携拠点事業多職種合同研修会事業報告

日 時：平成24年11月13日（火）18時00分～20時00分
場 所：石巻専修大学 4号館4202教室
目 的：地域の在宅医療、介護従事者等の多職種が研修会を通じて口腔ケアの知識を深める。
また、多職種が意見交換、情報共有できる場を設け、お互いの顔の見える関係作りを図る。
主 催：石巻市立病院開成仮診療所
対 象 者：石巻市内の行政関係者、医療関係者、福祉関係者、ケアマネージャー他
参加人数：124人（別紙参加者名簿実績参照）

プログラム

1 開 会

2 あいさつ 石巻市立病院長 伊勢 秀雄

3 「在宅医療連携拠点事業について」

石巻市立病院開成仮診療所 在宅医療連携拠点事業担当 安達 祥子

4 報告 「仮設住宅での歯科口腔保健事業について」

西條 広子

（石巻市健康部 健康推進課 技術課長補佐）

5 講演 「在宅における摂食嚥下・口腔ケアについて」

講師 牛山 京子

（広島大学歯学部非常勤講師 九州歯科大学口腔保健学科、

山梨県歯科衛生専門学校ほか非常勤講師 山梨県歯科衛生士会監事）

6 質疑応答

7 アンケート記入

8 おわりに 宮城県歯科医師会副会長 山本 壽一

石巻市立病院開成仮診療所長 長 純一

9 閉会

石巻市立病院開成仮診療所
第2回在宅医療連携拠点事業多職種合同研修会事業報告
(第2日目)

1 目的

地域の医療、介護従事者等の多職種が実技指導を通じて口腔ケアの知識を深める。また、入院患者への実技指導を通して、多職種が口腔ケアに関するケアの質を高め、技術の習得・向上を図り、人材の育成に寄与する。

2 日時

平成24年11月14日(水) 9:00～16:30

3 場所

医療法人医徳会 真壁病院 一般病棟・療養病棟(2病棟)の合計3病棟

4 内容

(1) 9:00～

オリエンテーション・自己紹介

(参加者：牛山先生、武田看護部長他6名、渋谷・安達の計9名)

(2) 9:35～15:00

牛山先生による病棟での実技指導 (各病棟3～5名、計12名に実施)

(3) 15:30～16:30

反省会・総合レクチャー

(参加者：牛山先生、武田看護部長他9名、渋谷・安達の計12名)

<ケアの実際>

1. 80歳代女性 アルツハイマー型認知症

- ① あいさつ
- ② 口腔内観察（座位保持可）
- ③ うがいの実施→水の汚れ観察
- ④ 患者が自分で磨く様子を観察
- ⑤ 患者へ実演の説明・同意をいただき、実施
- ⑥ 「ありがとう、気持ちよかった。」と。

*この症例では、うがいの大切さ、実施時間は長いと苦痛になることを説明される。

2. 70歳代男性 肺炎、脳梗塞後、飲みこみ悪く経管栄養となる。発語なし。喀痰多い。

- ① あいさつ
- ② S p o 2 値確認、実施中観察継続
- ③ 体位作成（30°程度ギヤッチアップ、軽度右側臥位）
- ④ 口腔内観察—乾燥あり、喀痰多い
- ⑤ リフレケアにて保湿後、ケア実施し口蓋、舌上の硬くなった部分を粘膜ブラシでからめとる。

*この症例では、普段話さない患者が、口を開き「はい」や「うん」等の声を出し、スタッフも驚く。

3. 80歳代男性 認知症 経口摂取できなくなりI V H挿入中。

- ① あいさつ
- ② S p o 2 値確認
- ③ 体位作成（30°程度ギヤッチアップ、軽度右側臥位）
- ④ 口腔内観察—乾燥あり
- ⑤ 声かけにも開口せず、首を振るため、口唇、歯肉等を粘膜ブラシで刺激、リフレケアで保湿

*首を振ることも運動、リハビリであると説明。

4. 89歳男性 肺炎 食事中的むせこみや痰がらみが多くなる、飲み込み悪くなり10日前から経管栄養へ。普段、話をするとはほとんどない。

- ① あいさつ
- ② 体位作成（30°程度ギヤッチアップ、軽度右側臥位）
- ③ 口腔内観察—口腔内乾燥、唾液量少ない
- ④ 口腔ケア、リフレケアでの保湿等実施

*この症例では、最後に患者は「気持ちいい」と話され、スタッフは驚いていた。

5. 91歳女性 誤嚥性肺炎 飲みこみ悪くなり1年以上前に胃ろう造設も、嘔吐し誤嚥、今回の入院となる。発語はあるが、意思疎通不可。

- ① あいさつ
- ② 体位作成（30°程度ギャッチアップ、軽度右側臥位）
- ③ 口を開けようとしなが、声がけと口唇の保湿で徐々に表情穏やかとなる。
- ④ 口腔内観察
- ⑤ リフレケアでの保湿とブラッシング等実施。

*この症例では、はじめは開口せず拒否していた患者が最終的には笑顔に変わった。

6. 70歳代女性 アルツハイマー型認知症 開口しなくなり経管栄養となる。

- ① あいさつ
- ② 口腔内観察―首を振り拒む仕草あり。
- ③ まず手指に水をつけて口唇を湿らせる。
- ④ 粘膜ブラシで歯肉等を刺激する。―徐々に開口し始める。
- ⑤ リフレケアで保湿、ブラッシング。

*口腔ケアで口を刺激することは、喉頭蓋が動きだし舌も動き出す、唾液量も増加することのこと。

7. 61歳男性 交通事故後レスピ装着、デクビあり。

- ① あいさつ
- ② 体位は仰臥位のまま、S p o 2 値測定。
- ③ 口腔内観察―口唇の乾燥著名
- ④ 口唇をレフレケアで保湿
- ⑤ 粘膜ブラシと歯用ブラシでマッサージ、歯みがき。

*歯肉より出血あるが、やわらかいブラシで出た出血はうっ血していたものが出ただけなので心配いらず、むしろ出したほうが良い。しかし、かたい歯ブラシで傷をつけた出血を一緒にしてはいけないと説明あり。

8. 78歳女性 認知症 摂食障害のため経管栄養へ。口臭あり。頸部拘縮強い。

- ① あいさつ
- ② 体位作成（30°程度ギャッチアップ、軽度右側臥位）
- ③ 口腔内観察―口唇乾燥あり
- ④ あごの拘縮予防にマッサージ施行。
- ⑤ レフレケアでの保湿、粘膜ブラシでのマッサージ

*この症例は、あごや歯肉のマッサージで開口がスムーズになる。

9. 68歳女性 多系統萎縮症 デクビあり、痰の量も多い。口唇硬くつぐんでいる。可動域狭い。

- ① あいさつ
- ② 体位作成（30°程度ギャッチアップ、軽度右側臥位）
- ③ 口腔内観察—唾液量少ない
- ④ 唾液腺（両頬）マッサージ、粘膜マッサージ施行

*この症例は、マッサージ施行中より病棟スタッフが驚くほど見る見る表情が良くなる。

10. 96歳男性 脳梗塞後、胃ろう造設後。

- ① あいさつ
- ② 口腔内観察—口臭、乾燥あり。舌苔あり、舌表面硬い。
- ③ 口唇、口腔内をレフリケアで保湿
- ④ 粘膜マッサージ

*この症例は、病棟スタッフより舌がやわらかくなったことに驚きの声があがった。

11. 88歳女性 肺炎、廃用症候群。誤嚥あり、胃ろう造設。

- ① あいさつ
- ② 体位作成（30°程度ギャッチアップ、軽度右側臥位）
- ③ 口腔内観察—口唇乾燥あり
- ④ あごの拘縮予防にマッサージ施行
- ⑤ レフリケアでの保湿、粘膜ブラシでのマッサージ

12. 70歳代女性 強皮症のため1年以上絶食、IVH管理。拘縮あり。レベルクリアー。

- ① あいさつ
- ② 体位は45°程度の仰臥位
- ③ 口腔内観察
- ④ 粘膜マッサージ、歯みがき施行。レフリケアで保湿

*この症例は、最近体調が悪いため、表情が暗く会話もなかったが、ケア後、「さっぱりしていいね～」と笑顔で繰り返す、看護師を驚かせていた。牛山先生も、「牛山先生ありがとう」と言われ感動される。

<反省会・総合レクチャーより>

- Q 1) 歯磨きティッシュの有効性について教えて欲しい。(C・W)
A — 個にあわせて、その時々状況により必要ならば使用もよいのでは。ケースバイケースで考えて、一度に全部を変えることは無理なので、少しずつ良い方向にいけるといいのでは。
- Q 2) 60歳代の夫がアルツハイマーの妻を自宅で介護。一度の食事に2～3時間かけている。(訪問看護師)
A — 食事内容の確認をまず行うこと。だらだら食べるのはお互いに疲れるので、時間を決めて、途中でやめる。空腹感を感じてもらうことも大切。口腔内を清潔にすることも忘れずに。
- Q 3) 歯ブラシの汚れはどうしたらよいか。(C・W)
A — 洗浄後、薬液につけてもよいが、とにかく洗浄、きれいに洗ってください。
- Q 4) 歯みがき粉の使用はどう考えたらいいですか。(C・W)
A — 義歯への使用は避けて。他は好みでいいと思う。でも、使わなくなると歯は黄色くなります。うがいの出来ない方への使用もだめです。
- Q 5) 舌ブラシの使用はどうですか。(Ns)
A — 舌の状況はさまざまなので、状況による。舌苔がすごく厚くなっている場合などには使用を考えた方がいいのではないかな。
- Q 6) 口腔ケアを毎日きれいに出来なくても、時々でも集中的に実施することは有効か。(C・W)
A — 家の掃除と同じ。毎日ピカピカに出来なくても、時々でもきれいにすることは大切。

<スタッフの感想より>

1. 普段、開口しない人が緊張がとけたためか、開いていた。「気持ちよかった。」という声も聞かれ、うれしかった。これまでは、口腔内の汚れを擦り取っていたが、からめとるということを学んだ。
2. きれいにすることばかりで、あごの拘縮に目がいかなかった。リラクスの効果を学べた。
3. これまでの、声かけや物品の不足に気づけた。
4. 開口できない人への、口の刺激・頬のマッサージ等で表情が良くなることがわかった。口腔内も個別性が大事と思った。
5. これまでは、むせることを怖がっていたが、口腔の刺激・湿润環境を作るケアで、前に出てくるとわかった。
6. 一つの方法ではなく、個別の方法で共通認識を持てるようにしていきたい。
7. 口腔ケアと肺炎の関連からも、口腔ケアをしっかりと行っていきたい。また、口腔内アセスメントや声かけの仕方をしっかりしていきたい。経口摂取していないと唾液の量が少なく口腔内は乾燥しているので、乾燥に気配りしていきたい。
8. ケース・バイ・ケースでの対応が必要であり、当たり前とっていたことに間違っていた点もあり、改善をしていきたい。保湿の重要性について理解できた。ケア前に必要なことを考えて、みんなの共通理解としていきたい。

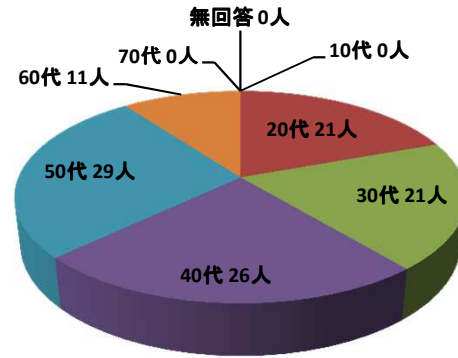
第2回合同研修会事後アンケート集計

回収108人、回収率89.2% (アンケート対象者121人)

1. 年齢

	人数	比率
10代	0人	0%
20代	21人	19%
30代	21人	19%
40代	26人	24%
50代	29人	27%
60代	11人	10%
70代	0人	0%
無回答	0人	0%
合計	108人	100%

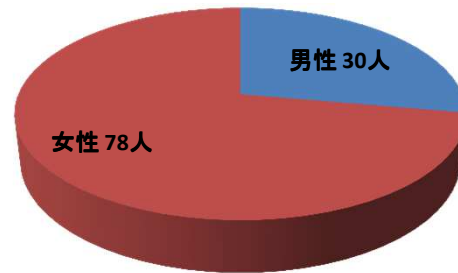
年齢



2. 性別

	人数	比率
男性	30人	28%
女性	78人	72%
合計	108人	100%

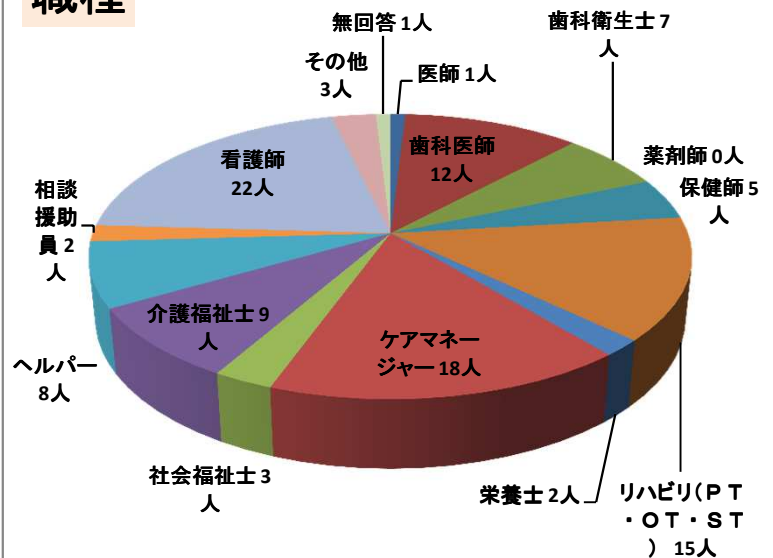
性別



3. 職種

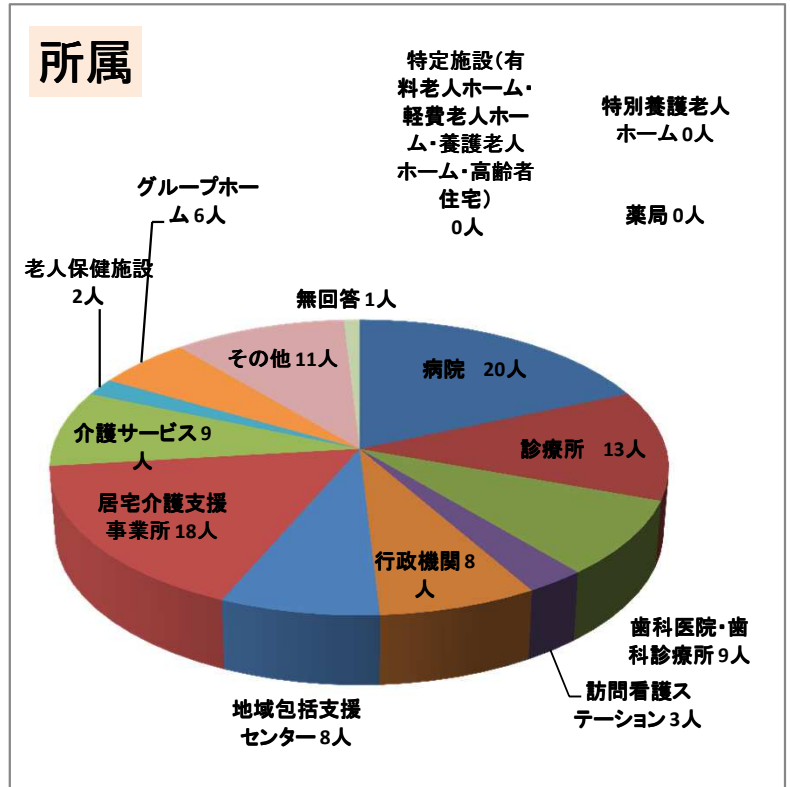
	人数	比率
医師	1人	1%
歯科医師	12人	11%
歯科衛生士	7人	6%
薬剤師	0人	0%
保健師	5人	5%
リハビリ (PT・OT・S)	15人	14%
栄養士	2人	2%
ケアマネジャー	18人	17%
社会福祉士	3人	3%
介護福祉士	9人	8%
ヘルパー	8人	7%
相談援助員	2人	2%
看護師	22人	20%
その他	3人	3%
無回答	1人	1%
合計	108人	100.0%

職種



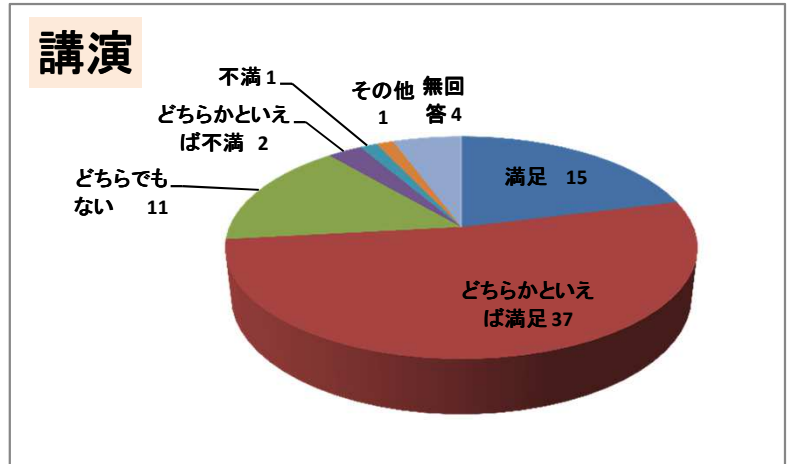
4. 所属

	人数	比率
病院	20人	19%
診療所	13人	12%
歯科医院・歯科診療所	9人	8%
訪問看護ステーション	3人	3%
薬局	0人	0%
行政機関	8人	7%
地域包括支援センター	8人	7%
居宅介護支援事業所	18人	17%
介護サービス	9人	8%
特別養護老人ホーム	0人	0%
老人保健施設	2人	2%
グループホーム	6人	6%
特定施設（有料老人ホーム・軽費老人ホーム・養護老人ホーム・高齢者住宅）	0人	0%
その他	11人	10%
無回答	1人	1%
合計	108人	100%



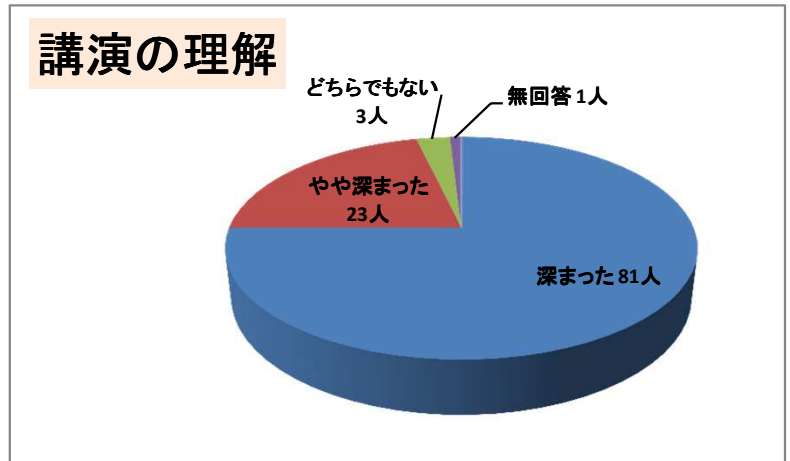
5. 講演

	人数	比率
満足	78人	72%
どちらかといえば満足	26人	24%
どちらでもない	3人	3%
どちらかといえば不満	0人	0%
不満	0人	0%
その他	1人	1%
無回答	0人	0%
合計	108人	100%



6. 講演の理解

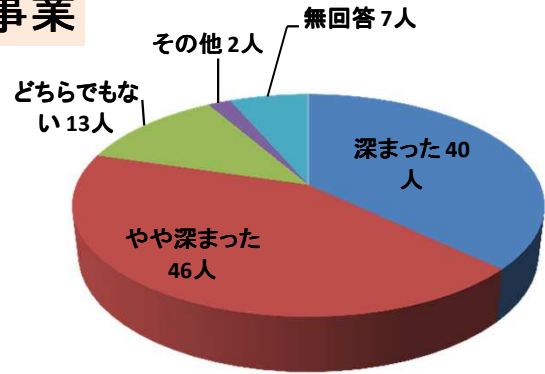
	人数	比率
深まった	81人	75%
やや深まった	23人	21%
どちらでもない	3人	3%
無回答	1人	1%
合計	108人	100%



7. 保健事業

	人数	比率
深まった	40人	37%
やや深まった	46人	43%
どちらでもない	13人	12%
その他	2人	2%
無回答	7人	6%
合計	108人	100%

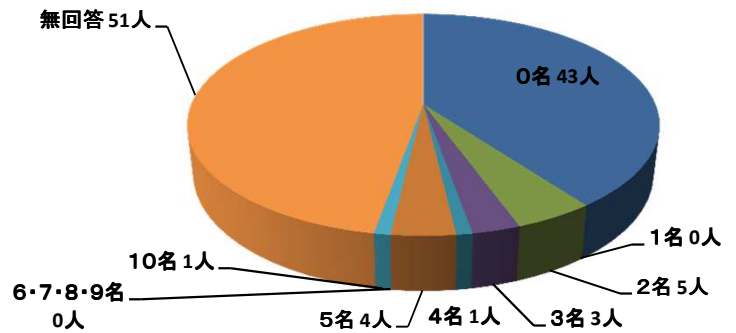
保険事業



8. 顔見知り数

	人数	比率
0名	43人	40%
1名	0人	0%
2名	5人	5%
3名	3人	3%
4名	1人	1%
5名	4人	4%
6名	0人	0%
7名	0人	0%
8名	0人	0%
9名	0人	0%
10名	1人	1%
無回答	51人	47%
合計	108人	100%

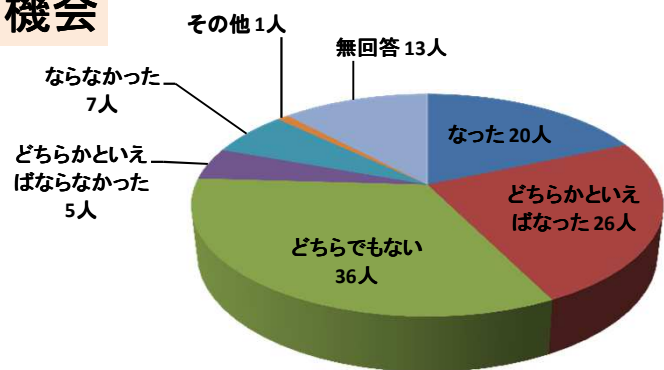
顔見知り数



9. 機会

	人数	比率
なった	20人	19%
どちらかといえばなった	26人	24%
どちらでもない	36人	33%
どちらかといえばならなかった	5人	5%
ならなかった	7人	6%
その他	1人	1%
無回答	13人	12%
合計	108人	100%

機会



(自由回答)

- ・歯科医、歯科衛生士とS Tとの連携についての研修。
- ・現在勤務中の病院の患者さんにも生かしていきたい。
- ・在宅医療の医療費について知りたい。
- ・多職種の方々と一緒に研修できる良い機会なので、交流できる場も取り入れてほしい。
- ・口腔ケアのセミナー希望。
- ・口腔ケアの研修は受講したことがなかったので、大変参考になりました。
- ・医療の研修で、在宅との接点のある研修希望。ターミナルケアについての研修。
- ・相談業務に従事している人自身を対象とした心のケア研修。
- ・口腔ケアで食事時間がかなり短縮できることに驚いた。
- ・多職種の業務内容を理解できた。
- ・講演はとてもよかったが、多職種連携を推し進めるのであれば、グループワーク形式が良い。
- ・口腔ケア＝歯みがき、うがいくらい程度にしか思っていなかったが、生きるためにいかに大切か理解できた。
- ・口腔ケアがQ O Lの向上に結びつくと考えたことがなかったので、勉強になった。
- ・さまざまな状態の人の口腔ケアの実際が知りたい。
- ・グッズの作り方を実演してもらい勉強になった。
- ・交流できるグループワーク、自己紹介などの時間の工夫が必要。
- ・食べるということは健康生活の基本、今後も時々開催して欲しい。
- ・わかりやすい話で勉強になった。
- ・在宅医療についての研修。
- ・開始時間が18：30以降が良い。
- ・口腔ケアの重要性が理解できた、実践に役立てたい。キネステイクの実技を含めた研修。
- ・食べることを楽しみにしている高齢者が多いからこそ、口腔ケアの大切さ、口から食べる大切さを感じた。
- ・リハビリへの関心は高いが、食べる、口腔ケアについての意識の低さに気づけた。
- ・口腔ケアにより少しずつ食べれるようになり、栄養も取れるということの大切さを学んだ。
- ・リハビリの中でも、口腔ケアは二の次になりがち。(リハ職の中でも、関心が少ない)
- ・うがいリハビリにつながると学んだ。
- ・口腔ケア→肺炎予防→廃用予防につながる。
- ・実技等を行うと顔見知りも増えるのではないのでしょうか。
- ・石巻圏での在宅における口腔ケア、摂食嚥下の問題事例について聞いてみたい。
- ・病院、施設における経口摂取の改善に伴う歯科衛生士、歯科医との連携を話題にした企画。
- ・口腔ケアの実技。
- ・仮設住宅入居者の現状、問題点、課題、在宅支援の現状について報告してほしい。

- ・糖尿病や高血圧などの生活習慣病予防の栄養指導についての研修。
- ・うつや精神的に落ちこんでいる方への傾聴、サポートの方法についての研修。
- ・症例や実践の話が聞いてよかったが、普段の多職種との連携についてもう少し聞きたい。
- ・せっかく多職種が集まったのでグループワークなどがあれば、より充実したのではないか。
- ・口腔ケアの理解が深まりました。
- ・食事、摂食嚥下の問題が発見されても、スムーズに検査等につながらない例をよく経験する。
- ・うがいの大切さを再認識した。
- ・口腔ケア、リハビリの具体的方法や指導方法についての研修。